

クイズに答えて素敵な商品をGET



今年は午年。ものが“ウマ”くいく、
幸運が駆け込んでくるなど躍動感に満ち溢れた馬は
古来から招福のシンボルと言われてきました。
実はこの馬。ある部分を見れば年齢がわかるのですがそれはどこでしょう？



① 蹄(ひづめ) ② 歯 ③ 尻尾 ヒント…芸能人は〇が命！

応募方法 プレゼントの応募方法…同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。
抽選で各 ⑦ 霧島神宮 幸せの御守水晶ストラップ(5名) ⑧ 米焼酎 薩摩自顕流(5名)
⑨ 八女このみ園 新茶(10名) をプレゼントいたします。
いずれかご希望の商品をご記入下さい。

応募期間 2014年4月25日(金) (消印有効)まで
当選発表 商品の発送をもって当選とさせていただきます。

皆様のご応募お待ちしております

社員旅行 in 鹿児島

2月15、16日の1泊2日で九州新幹線に乗って鹿児島へ行ってきました。
前回の旅行から5年ぶりとなるので全員楽しみにしていましたが、当日になっ
て風邪とインフルエンザを発症した3名が欠席、参加者で体調不良が3名という前
途多難を予測される中、
鹿児島は晴天で迎えてくれました。



長洲 剛 桜島オールナイトコンサート記念モニュメント
「叫びの肖像」前で記念撮影
桜島の中心で灰をさけぶ？いや、それを言うなら愛でしょ！(笑)

行程は桜島フェリー
で渡り「赤水展望広場」から映画「永遠の0」のゆ
かりの地「鹿屋航空基地資料館」「霧島神宮」「霧
島アート森」野外美術館と内容がとても濃く、楽
しい社員旅行となりました。

なお、今号のクイズのプレゼントは鹿児島のお土
産とさせていただきます。
皆様ぜひふるってご応募ください。

ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

国松石材株式会社

平尾店/福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189
工場/福岡市東区松田3-6-12
TEL 092-629-1189 FAX 092-629-2043

<http://www.kunimatu.com>

編集後記

今号より松ぼっくり
を担当させていただきました
を担わせていただき
ました。クイズの答えは分かりましたか？
みなさまにとって何事も“ウマ”くいく
年になるよう願っています。

また、皆様に楽しんで頂けるような内
容を考えていきます。

今後ともよろしくお願ひします。

(國松太朗・田中俊晴)

松ぼっくり

- 1 季節の小話
- 2 お墓の相談室「疑問・質問にお答えします」
- 3 第26回 町名散歩「大濠」
- 4 お墓参りっていいね！
「お墓参り」の感動的なエピソード
第2回 俳優・森繁久彌さん
- 5 國松さん、今なんしようと？
國松石材スタッフ紹介
- 6 クイズに答えて素敵な商品をGET！



季節の小話

もうすぐ新茶の季節です。夏も近づくと八十八夜と歌われているように、八十八夜は、立春からかぞえて
八十八日目にあたる日で、今年は、5月2日です。

八十八夜は春から夏に移る節目の日、夏への準備をする決まりの日で縁起のいい日とされてきました。
昔からこの日に摘み取られたお茶を飲むと一年間無病息災で過ごせるという言い伝えがあります。実際
にこの日の前後に摘み取られたお茶は、新茶の中でも一番味がのっておいしい極上のお茶だそうです。

お茶は、鎌倉初期(1191年)に栄西(えいさい)禅師が宋から帰国する際、日本に
持ち帰ったものです。戦国時代も、愛飲され、あの黒田官兵衛も抹茶に詳しく、敵
の山城を攻撃する際に利休とお茶談議で盛り上がったという書簡が今も残って
います。戦乱の中でもお茶の話をする心の余裕…

官兵衛には、及ばなくても、忙しい時ほどお茶を一服飲む心の余裕を持ちたい
ものです。

今年のゴールデンウィークは、集まった家族で新茶を一服…してみませんか。



お墓の相談室

疑問・質問コーナー

前号にひきつづき、松ぼっくりの返信ハガキでいただきましたご質問の中で特に多かったご質問にお答えいたします。

ご質問がございましたら
ご遠慮なくご一報下さい。



お墓の文字の金箔がはげてきました。修復はできますか？



お墓の文字の金箔は10年ほどたつと徐々に色落ちが目立ち始めます。修復する場合は一度金箔をきれいに削り落としてから金箔を貼ります。修復は1文字から承っていますので気になるようでしたらお問い合わせください。



お墓の階段を上るのがつらく困っています。手摺りを取付けることができますか？



手摺りを取付けることはできます。手摺りを取付けるには階段の形状、段数などを考えた設計のご提案をしています。材質は耐久性があるステンレス製とアルミ製になります。価格は安価な規格型からオリジナルで製作する特別仕様までございます。



お墓の草とりが大変です。何かいい方法はありませんか？



ご先祖様の供養にもなり、手で抜くのが一番いいんですが、抜けば抜くほど耕すことになり、草の生えが一段と良くなってしまいます。



まずは
ご相談下さい。



國松さん、 今なんしようと？

『中村信喬氏 石馬製作協力』 ～筑後船小屋九州芸文館～

新幹線筑後船小屋駅前、九州芸文館に鎮座する石馬像。高さ2メートル、重量はなんと8.7トンもあります。

この石馬像は平成24年5月に製作話が持ち上がり、弊社の制作協力により平成25年3月6日に完成しました。石馬像を考案、製作された日本工芸会理事、人形師中村信喬氏に製作秘話を伺うと、この九州芸文館の近くにある九州北部最大の岩戸山古墳から100点を越える石人、石馬が出土しており悠久の時を経ていまに現れた歴史に感銘を受け石馬を製作することを思いついたそうです。

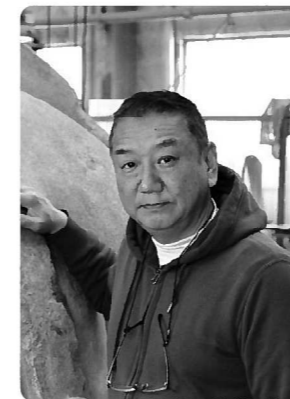
この歴史と命の伝承があるから、いまを生きているんだというメッセージを子供たちに伝えるべくこの巨大な石馬が自ら現れたのかもしれない。

実はこの石馬は中村信喬氏親子の共作でありご長男の弘峰さんも石馬製作に携わっています。そんな中村信喬氏親子共作による石馬も親子で現れたため、まるで母馬が愛おしむように可愛い子馬と向き合っています。

命のルーツを考えさせてくれる石馬。お時間があればご家族みなさまで足を運んでみてはいかがでしょうか？



石馬像製作風景 ～弊社工場にて～



中村 信喬氏



中村 弘峰氏



九州芸文館 筑後市大字津島1131 ☎0942-52-6435

営業担当/木村圭蔵・花田義久 工事担当/宇津宮豊胤・高村浩生・柿原国一・溝添篤史

國松石材スタッフ紹介



たかむら こうせい
工務部 高村 浩生

今回、重量が8トンを超えるモニュメント(石馬像)の設置は初めてだったので、ワイヤーを掛ける位置を慎重に考え作業をしました。これからも安全第一を心掛けて頑張っています。

- 生年月日 / 1982年10月16日生まれ ■ 血液型 / B型
- 資格 / 1級石材施工技能士(厚生労働大臣認定)
玉掛け技能講習修了、職長・安全衛生責任者教育修了
- 最近楽しんでいること / 8のつく日に家族でたこ焼きパーティをしています。



第26回
町名散歩
大濠

黒田長政が福岡城築城の際、当時博多湾の入江の一部だったこの地域（草ヶ江と呼ばれていた）を埋め、福岡城の外濠（大堀）として城の護りとしたのがその名の由来だそうです。

その後、福岡県が「東亜勸業博覧会」を機に造園工事を行い、昭和4年に開園したのが現在の大濠公園です。

大濠公園は福岡市のほぼ中央に位置し、総面積40万平方メートル、うち21万平方メートルの池を有した、国内でも有数の水景公園です。中国の西湖を模したと言われるこの池は、4つの中の島があり、それぞれ橋で結ばれ、浮見堂を有しています。水面に映る木々や橋で結ばれた島々などが美しく調和し、訪れる人々の憩いの場となっています。

周囲がほぼ2km(正確には1921m)とキリの良い距離のため、サイクリングやジョギングをする人も多く見られます。春には近隣の舞鶴公園や西公園とともに、花見の名所ともなっています。また、毎年8月1日には、西日本大濠花火大会が開催されており、福岡市の夏の風物詩として知られています。

公園の所々には、当時の「東亜勸業博覧会」の名残でしょうか、とても大きな石灯籠が散見されます。すごく大きいんですよ。

この前の福岡県西方沖地震でも倒れなくて良かったですね！

私も最近大濠公園を散歩しました。一周するのに30分かかりましたが、運動不足気味でしたのでいい運動になりました。

大濠公園には、福岡城の外堀（慶応年間）、東亜勸業博覧会（昭和2年）など、いろんな歴史が刻まれています。

そんな歴史を思い浮かべ、春の大濠を散策してみたいはいかがですか。



浮見堂



黒田長政の時代1568年頃の地図



石灯籠

大濠

「お墓参り」の感動的なエピソード

お墓参りっていいね！



第2回 俳優 森繁久彌さん 「おのが墓をつくる」

森繁久彌著『隙間からスキマへ』(日本放送出版協会)より

新東宝が生まれて、私の仕事も第一作が、これもアメリカ映画「腰抜け二丁拳銃」のヤキナオシで「腰抜け二刀流」というインチキ宮本武蔵のパロディだったが、主演は主演だ。あとで聞いたところによると、私の主演は大変もめたそうだが、当の本人は大陸風に何をどういわれてもどこ吹く風で心臓の強さを見せた。

それから、たてつけに仕事が入った。

生活は目に見えて、よくなるなければならないはずが相変わらずさっぱりである。

一本25万円という気の遠くなるような出演料が決ったが、第一作を撮り終わった時、どこでどう削られるのか手にした金は10万円で、これが映画の常識と聞かされた。

私は、10万の金を握って、青山の「石勝」に、社長である懐かしい早稲田の友を訪うた。ところが、石屋の社長は、気でも少々変になったんじゃないかというような、あきれた顔をして、「俺は商売だから、頼まれれば君の墓もつくるが、まだ生きとるのに、しかも第一回のめたい収入でつくらなくてもいいじゃないの」

「それはね、君の見解だ。俺は拾った後半生に開運のきざしが見えて来たから、その鹿島立ちにあたってまず終着駅だけをちゃんとしておきたいんだ。そしてからフルに働いて、華々しく生きてやろうと思うんだ。入るところが決ってりゃ、ふんぎりもついて悠々とやれると思うからだ」

「分からんでもないが、変わってるな、君は——」

「何も変わってやせんよ。君は、いながらにして親父の座っていた社長の椅子に納まったから、分からんのだ。俺は俺で一世代だ。何でもいから、適当な石があるだろう、見せてくれよ」

なかば喧嘩ごしなので、彼もしぶしぶ倉庫のあちこちを案内して、無造作に転がった石を見せた。そのうち、隅っここのほうに薄空色の花崗岩の手ごろのな奴があったので、これでいいと決めた。

「あんまりでっかいのは高いだろうし、入ってからも重いからな」

と笑い飛ばして、墨痕リンリ「森繁家」と墓碑銘を草した。

そしてそれから数力月。

晴れた初秋の一日、東京は日暮里、谷中の父の墓のそ

ばに一家はうちつどうた。四角にくぎったツゲの木にかこまれた一隅に、わが墓は、真新しく陽光を浴びていた。

しかも彼の好意で、その隣にもう一つ——、いずれの地にいつの日戦没したか、いまだ定かでない一番好きな上の兄の弘の墓も、並んで竣工していた。

坊主の読経を不思議なものを見るような顔をして、三人の子供は聞いていた。

「父さんは、やがてここに入るのだ。そしてお前たちも、やがてここに来るのだ。いいか、だから、しっかりやれ」と自分でもおかしいと思うほどわからぬことを云ったのを覚えている。

「へエー、こんなせまいところに入るんだって……」

と子供たちは無邪気に笑って墓のまわりをはしゃいでいたが、私はおもむろに線香をつけ、瞑目して兄の墓にひざまずいた。

「僕の一番好きだった兄貴よ！ 天にあるならば来りて僕の声を聞かれない。長い間、さまよわせてご不自由かけました。ごめんなさい。でもやっとあなたの住居もできました。そして隣りに僕の眠る場所もできました。今、僕は、何も持って入れない、せまいこの一尺四方の穴を見て、初めて気持ちが落ち着いたようです。いずれゆっくりお話のできる日が来るでしょうが、それまでにはもう少し時間がありそうです。思いきりやって、やって、やりまくって、いっさいの悔いもなく、手ぶらでここへ来るつもりです。楽しみに僕をみていてください」

香煙は縷々として、悠久の蒼天に小鳥の声とともに消えていった。ポタリと墓石の上にひとしずくが落ちたが、それはみがかれた墓石に、音もなくすわれて行った。



森繁久彌著
『隙間からスキマへ』
(日本放送出版協会)
発行日 1992年3月20日